

衝突時衝撃吸収クッション車

車線規制時の衝突事故被害を大きく軽減することができます



『工事現場に車突っ込む...作業員はねられ死亡』。このような報道を度々目にしませんか？
道路工事で車線規制を行う場合、規制を始めるテーパー部の内側に標識車を置いて注意喚起を行いますが、こうした車両に衝突してしまう事故が後を絶たず、作業員の安全確保が大きな課題となっています。
ヤシカ車体は、オランダVERDEGRO社の衝突時衝撃吸収クッションTMAシリーズで、この課題に応えます。



EUでは、車線規制時には衝撃吸収クッション車を配置することが指定されているため、ヨーロッパは衝撃吸収装置において最先端を行っています。



軽量アルミ合金によるハニカム構造になっており、これが潰れることで後方からの衝突を受け止め、時速70kmで一般車が衝突しても車を包み込むように衝撃を吸収し、現場の2次災害を防ぐことができます。



車を包み込むように受け止めるため他の車線への影響も最小限に留めることができ、部品の飛散も低減できるので、事故による通行止めリスク軽減や、事故からの復旧にかかる時間の短縮など、道路インフラ業界に与えるインパクトは絶大です。



日本でも、作業員の安全・安心のためにも、このような装置が普及するとイイよね！
私たちヤシカ車体は、このような車両の製作に参加することで、安心・安全な社会の構築に貢献いたしております。